

地域課題・目指す将来像

地域
課題

- 高い質の教育を担保できない地方都市は、単身赴任を選択されやすく、**高度人材の確保が難しい**
- 公共交通の利便性を高めていかなければ、**運転免許の返納が難しい**
- 持続可能な地域づくりのため**市民がより積極的にまちづくりに参加する仕組みが必要**

将来像

- 子どもから大人まで一人ひとりの個性や能力を大切にしながら「製造業のまちならではの学び」を推進し、**市民の「自地域肯定感」を育む安心・安全で、かつ利便性の高い社会をつくり、我が国のお家芸である製造業を中心に、市民が主役のまちを目指す**

推進体制

名称：延岡市未来技術地域実装協議会

地方公共団体	延岡市、延岡市教育委員会
国（★は現地支援責任者）	★内閣府（地方創生推進事務局）、警察庁（交通局）、総務省（九州総合通信局）、文部科学省（科学技術・学術政策局）、厚生労働省（九州厚生局）、経済産業省（九州経済産業局）、国土交通省（九州地方整備局延岡河川国道事務所、九州運輸局）
大学	東京大学、宮崎大学、東京学芸大学、慶應義塾大学SFC研究所、九州医療科学大学、国立循環器病研究センター
民間事業者	旭化成(株)延岡支社、旭化成ネットワークス(株)、(株)ケーブルメディアワイワイ、宮崎交通(株)、（一社）宮崎県タクシー協会延岡支部、延岡市商店会連合会、(株)リクルート、凸版印刷(株)、三菱電機インフォメーションシステムズ(株)、フェリカポケットマーケティング(株)

課題解決に向けた取組

(写真・図：延岡市提供)

①知力・体力・人間力を育む「世界一の子育て・教育のまち延岡」事業【AI】

- ・ 「延岡こども未来創造機構」を設立し、学びの「ログ」化等により児童生徒一人ひとりの到達度に合った学習ができる環境を整備
- ・ 児童生徒のバイタルデータから体調の変化や心の不調などを把握し、学校における不登校児童の兆候を把握（医療×教育データ連携）

②行動パターン分析による交通網を最適化事業（マイカー卒業社会の実現）及び「逃げ遅れゼロ」の避難対策構築事業【自動運転】

- ・ 行動パターン分析によるバス路線・時刻表・停留所等の最適化
- ・ シェアサイクル、デマンド交通、自動運転等の組合せによる交通ネットワークの構築により、バスでカバーできないニーズに対応

③行動変容・行動誘発に寄与する地域ポイント活用サービス事業【キャッシュレス】

- ・ 健康に寄与する活動、ボランティア活動、SDGsに貢献する行動、健康づくりに関する活動等に対してポイントを付与しながら、行政の負担を軽減しつつ、市民の力で社会をより良くするためのキャッシュレスプラットフォームを構築



図1：延岡こども未来創造機構 図2：行動パターン取得アプリ 図3：健康長寿ポイントアプリ

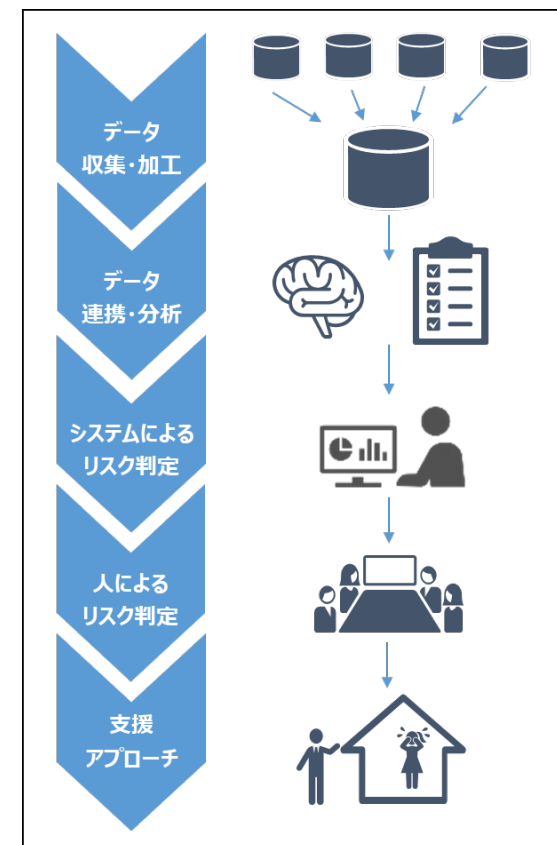
①知力・体力・人間力を育む「世界一の子育て・教育のまち延岡」事業【AI】

取組内容

➤ こどもに関する行政・教育データの連携・分析による、不登校等リスクの早期発見（こどもデータ連携実証事業）
（2024年8月～2025年3月）

背景・課題	- 延岡市は子育て家庭に対し経済的支援、育児支援等に取り組んでいるが、物価高騰等により、家庭を取り巻く環境は厳しい状況にある。また、不登校、虐待等の子どものリスクに関する相談件数は年々増加しており、潜在的リスクを持った子どもが多く存在していることが想定される。 - 現状では、潜在的リスクに対して有効なアプローチ方法なく、家庭や学校等の関係機関からの相談や情報提供により職員がリスクを検知している状況にある。
目的	データ連携による分析（デジタル）と職員によるアセスメント及びアプローチ（アナログ）を融合させることで、リスクを抱えた子どもや家庭の早期発見及びプッシュ型支援を行うための環境構築を行う。
取組フロー	- 行政データ（幼児健診、妊産婦健診、障害者手帳、生活保護等）及び教育データ（出欠状況、歯科健診等）を収集・加工し、連携・分析を実施。 「不登校」「虐待」「貧困」「ヤングケアラー」「発達障がい」「産後うつ」の6類型について、システムによりリスク判定。 - システムにより高リスクの可能性があると判定された子どもについては、学校教員へのヒアリング等を通して人による判定を行い、最終的なリスク判定を実施。 - 最終的に高リスク（リスクの兆候あり。）と判定した子どもについては、職員が家庭訪問等のアプローチを行い、保護者に対して子育て相談窓口の情報提供、支援メニューの紹介等を実施。
R6年度実績	以下のとおり、リスク類型ごとに新たにリスクの兆候のある子どもを検知した。 ※人による絞り込みは、就学児はモデル校5校を通して、未就学児は幼児健診を通して実施した。 ＜モデル校＞ 不登校：2名 虐待：4名 貧困：3名 ヤングケアラー：4名 ＜幼児健診＞ 虐待：1名 貧困：1名 発達障がい：3名 産後うつ：0名

取組フローイメージ



②行動パターン分析による交通網を最適化事業（マイカー卒業社会の実現）及び「逃げ遅れゼロ」の避難対策
構築事業【自動運転】

実装内容

➤ 脱マイカー社会推進のためのオンデマンド交通サービス（2022年11月1日運行開始）

- 本市の過疎地域の1つである北浦町においては、住民の高齢化が益々進展する一方で、運転免許を返納したくても利便性の高い公共交通が整備されていないことから、マイカーに依存せざるを得ない状況にある
- こうした状況に鑑み、住民個々の移動ニーズにきめ細やかに対応するオンデマンド型乗合タクシーの運行システムを導入し、社会実装した
- ①ドアトゥドア方式であること、②当日の予約にも対応する即時利用性を有すること、③重複する利用予約から最適な乗合運行計画を自動生成するシステムを導入したこと等により、住民にとって自由度の高い移動サービスの実現と効率的乗合運行の両立を図った
- 今後は、東京大学による行動パターン分析（住民126人の行動パターンをGPS機能により分析）の結果を活かし、住民の行動（人流）に即した運行計画の改善（運行時間帯、車両投入台数、車両待機場所等の最適化）や、他の交通モードとのベストミックス（路線バス等との機能分担）を図りつつ、同町での運行を確立した上で他地域への展開を目指す
- 予約実績：（R4/11/1～R5/3/31）654件 （R5.4.1～R6.3.31）2,645件（R6.4.1～R7.2.28）3,143件

